



茨城県知事賞[最優秀賞] いばらき幼稚園
●一級建築士事務所 株式会社 本瀬齋田建築設計事務所

第35回

茨城 建築 文化 賞

協賛／(一財)茨城県建築センター (一社)茨城県建築士会
(一社)茨城県建設業協会 (一社)茨城県設備設計事務所協会
後援／茨城県 (株)茨城新聞社 (株)日本工業経済新聞社
(株)日本建設新聞 (株)建設未来通信社



**茨城県議会議長賞[優秀賞]
結城市庁舎**

●株式会社 久米設計 住所／東京都江東区潮見2丁目1-22 久米設計本社ビル 電話／070-1551-9794

●協力事務所 構造／河合正理、花田達矢、山口春樹 電気／町野陽一郎、前博之、小林愛佳 機械／伊藤学、田中美穂

●建物所在地／茨城県結城市中央町2丁目3 ●建物用途／市庁舎(事務所) ●構造／鉄骨造 ●建築面積／3,673.04m² ●延床面積／10,707.84m²

**まちの顔となる庁舎であるとともに
災害時にも継続可能な環境配慮型庁舎を実現**

に、基礎免震振や執務室の無天井化、議場の膜天井化を行い、安全性に配慮した「災害時にも継続可能な庁舎」とすると共に、感染症対策にもなる吹抜けを介した重力換気や、井水利用した

結城市には、見世蔵等の歴史的な町並みや、重要無形文化財である結城紬があり、まちの重要な文化として市民から大切に育まれている。新たな地に立つ新庁舎では、市の文化である結城紬をモチーフとし、積み重ねてきた歴史の継承とのまちの文化の表象を行った。特徴的な大きく弧を描く1階の屋根は、市民を迎える「まちの顔となる庁舎」となると共に、天井高さの変化により市民の様々な居場所となる。屋根架構プレース機能を兼ねた木合板天井や、吹き抜けに面した木ルーバーにより、カーボンニュートラル社会の実現に向けた「木質化庁舎」を目指した。さら



**茨城県知事賞[最優秀賞]
いばらき幼稚園**

●一級建築士事務所 株式会社 本瀬齋田建築設計事務所
住所／富山県富山市中央通り1-6-4F 電話／076-461-3064
●協力事務所 構造／株式会社 ラケンネー一級建築士事務所 電気／株式会社 祥設計 関東事務所
機械／株式会社 祥設計 北陸事務所 その他／有限会社 汎連合設計
●建物所在地／茨城県東茨城郡茨城町大字駒場491-1 ●建物用途／幼保連携型認定こども園
●構造／木造 ●建築面積／910.25m² ●延床面積／802.61m²



子どもたちの原風景となるこども園

いばらき幼稚園は今年で開園60周年を迎え、長らく地域の教育・保育を担ってきました。新園舎の敷地はこの地域に広がるゆったりとした畑の中にあり、周りには林やビニールハウスが点在しています。近隣の小学校には卒園生も通っています。そんな立地のこども園が、子どもたちの原風景として豊かな地元の風景の一部となるよう、敷地の緩やかな斜面に屋根をゆったりと這わせ、農業施設のような大らかなスケ

ル感を持ったたたずまいとしました。カーブを描いた屋根の下は、子どもが走り回れる長くて広い廊下のような、ひとつながりの空間です。また、内外をまとった場所として使えるよう、園庭に面してデッキを設け、木製のテラス戸は片引き戸として、全面的に開放できます。柱と一体となったベンチや地形に沿った段差、隣接する足洗い場を活かして、野外でお弁当を食べたり、いろいろな遊び方ができるようにしました。





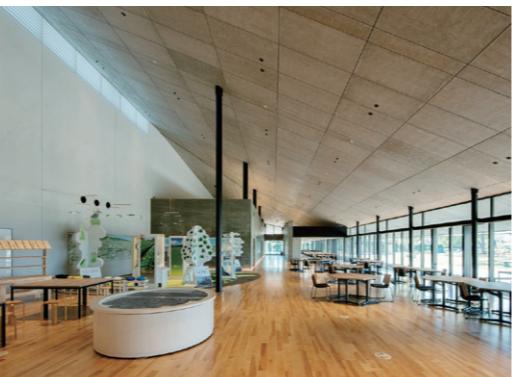
土木部長賞【優秀賞】 歴史と未来の交流館

●株式会社 梓設計 住所／東京都大田区羽田旭町10-11MFIP羽田3F 電話／03-5735-3214
 ●協力事務所 その他／(株)トータルメディア開発研究所 ●建物所在地／茨城県那珂郡東海村村松768番地38 ●建物用途／博物館
 ●構造／RC一部S造 ●建築面積／2,663.99m² ●延床面積／2,835.58m²

展示から文化活動へと促す空間構成を実現した 世代を超えた交流の場

本計画は、博物館と青少年活動施設に複合施設です。むら全体を博物館と捉えた『まるごと博物館事業』と連動した活動で繋がる「生きた展示」を実現し、開かれた展示室は学びと発表の場でもあると共に、文教エリアの教育施設や図書館との連携した東海村の生涯学習拠点です。村の中に位置する当施設の屋外広場や縁側は、周辺の図書館や文化ホール、学校などの帰りに気軽に立ち寄ることができる村民の憩いの場でもあります。

以下の3つのコンセプトを軸に、展示か



ら文化活動へと促す空間構成とし、世代を超えた交流の場を実現しています。
 1.展示室と多目的室、室内と屋外を南北方向の活動で連携する「敷地全体を活動でつなぐ構成」
 2.むら全体を博物館と捉え、収蔵・展示

から村の魅力をみんなで発見し、展示する開かれた「生きた展示空間」
 3.博物を保存するRC造の蔵と縁側空間を軽やかな活動の場を鉄骨造の大屋根で覆い、「活動と展示保存を実現する混構造」



[県建築士事務所協会長賞] ひたちなか市立 美乃浜学園

●株式会社 相和技術研究所 住所／東京都品川区上大崎2丁目18番1号 電話／03-5740-6711
 ●建物所在地／茨城県ひたちなか市磯崎町5135番地 ●建物用途／義務教育学校
 ●構造／RC造一部S造 ●建築面積／10,355.54m² ●延床面積／14,941.06m²

駅からの動線と居心地の良い空間を考えた義務教育学校

美乃浜学園はひたちなか市の太平洋側に位置する、平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区にある、3つの小学校と2つの中学校を統合した、市内初となる施設一体型の義務教育学校です。建設地は、統合する5つの小・中学校のほぼ中心で、ひたちなか海浜鉄道湊線に近接する場所が選定されました。

配置計画は、敷地の南側に共用グラウンドを取り、その北側に校舎棟、西側に屋内運動場棟とプール棟を配置する構成としました。電車通学の児童・生徒が多いため、駅からのアプローチをメインの動線と考え、敷地北西角に

正門を設けました。正門の先に広がるエントランス広場は、地域交流の場としての活用と共に、児童・生徒を昇降口へと誘導します。校舎棟の中央にある交流広場は、上履きで出られる人工芝張りの屋外空間で、休み時間の遊び場



としての機能や、学童保育時には指導員からも目の届く、安全な遊び場として活用できます。内装は木質化を可能な限り推進し、暖かみのある居心地の良い空間づくりを行いました。

[住宅部門優秀賞] 佐藤邸新築工事

●株式会社 直井建築設計事務所 住所／東京都千代田区神田駿河台3-1-9日光ビル2階A室 電話／03-6273-7967
 ●協力事務所 構造／すわ製作所NAWAKENJI-M株式会社
 ●建物用途／個人住宅 ●構造／木造 ●建築面積／181.05m² ●延床面積／156.54m²



この場所に建つ意味と価値を感じ 長く次世代まで継ないで欲しいとの願いを込めた

のどかな田園風景の広がる自然豊かなこの地に、農家住宅の敷地内に子世帯が孫とともに戻ることから計画が始まった。この地域も残念ながら少しづつ過疎化が進み人が減っていき、また美しい田舎の風景も少しづつ無くなってしまっている。そこで、まわりの自然環境や景色に溶け込むように建ち、この場所に建つ意味と価値を感じられ、それが

長く次の世代まで継ないで街並みを形成していって欲しいとの願いを込めながら設計をした。

外観は、おおらかな屋根の下に、南側に大開口を設けて太陽の恵みを十分に受け、2階建てだが低く佇むように立っている。室内は、杉の化粧垂木が連続して並び、松の床、栗の造作材など、地場でとれる無垢材を多用している。壁は漆喰壁を使い木とのバランスをとっている。メインの開口部には隠し框にした木製建具を使用して、木組みの美しさを際立たせている。



おおらかさと静寂の両立を目指した 持続可能な住まい

自然は作為的ではなくそれ自身で美しい。ここでの建築はその自然と等価に溶け込むような、おおらかさと静寂の両立を目指している。周囲の自然に溶け込み、風景の一部になるような美しい佇まい、一方でその美しさは造園家である施主が創造する第二の自然(庭)を引き立たせる。

施主によってつくられた小川の流れる前庭は住宅街からつくばの自然へと導く大切な役割を担っている。敷地の一部は傾斜地だったため、必要な建築面積を確保するには擁壁をつくり、造

成しなければならなかった。その条件を逆手に取り、擁壁の代わりに基礎からはね出しの形状で床面を空中に浮かせる断面計画とした。生活空間やバルコニーを地面から浮かせ開放的にしたことで遠くに見える田んぼや森に意識が向かい、自然の一部として溶け込んでいる感覚が得られる。

環境に寄り添って立つこの住まいは、今後も自然と共に趣を深め、時を経てもその価値を失わない持続可能な住まいとなるだろう。



[住宅部門優秀賞] 水戸笠原の家

●株式会社 サンハウス一級建築士事務所 住所／茨城県水戸市見和2547-3 電話／029-257-6566
●協力事務所 構造／株式会社エヌ・シー・エヌ 一級建築士事務所
●建物用途／一戸建ての住宅 ●構造／木造 ●建築面積／147.40m² ●延床面積／200.39m²



庭を含め「おうち時間」を愉しめる高断熱高気密住宅

夫婦、4人の子供、親との多世帯で暮らせる住まい。生活を営む内部空間と庭、そして公共の外部空間をいかにして結び、閉ざすかを考え設計した。延床面積60坪を超えるが、シンプルな構成とし、高さを抑えて周辺への配慮をした。道路や隣地月極駐車場から、主庭や室内を小屋や板塀で緩やかに仕切り、主庭と室内とを繋ぐ大開口部は、昼夜問わずにカーテン等で閉め切らずに過ごせるようにした。一方、植栽は、行き交う方々へも感じられるように計画した。Withコロナのなか、ご家族のお気持ちに寄り添いながら設計し、庭を含

め「おうち時間」を愉しみ、ご家族全員のリモートワークやリモート授業への対応を可能とした。外壁には焼杉を用い、素材感のある「木の家」の様相を表現し、内装には漆喰や県産材の杉板を用

いて、地域性に配慮した。許容応力度計算を行い耐震等級3を確保した。2050年カーボンニュートラルに向けて付加断熱を施した高断熱高気密住宅で、ルームエアコン1台で暮らしている。



[住宅部門優秀賞] ハコフネ

●一級建築士事務所 group-scoop 住所／福岡県大野城市筒井2-2-1-2F 電話／092-287-3996
●協力事務所 構造／間藤構造設計事務所 その他／空調設計富士環境システム株式会社、植栽計画：八進緑産株式会社
●建物用途／専用住宅 ●構造／木造 ●建築面積／92.49m² ●延床面積／154.27m²



複数の共生生活を同時に許容する柔軟な器

子世帯(夫婦+四姉妹)、親世帯(妻の両親+妹)、計9名の棲まいである。高齢の両親と難病で寝たきりの妹の療養の為、東京都心から日立に居を移し、これを機に二世帯同居を開始。「妹を中心に家族が集まる楽しい家にしたい」という依頼であった。闘病中の妹、高齢の父、介護で多忙な母と妻、移住に伴い在宅ワークとなる夫、元気いっぱいの四姉妹。大家族、介護、仕事、

遊びという複数の共生生活を同時に許容する柔軟な器が求められた。この要望に対し、余計な隔てのない、適度に曖昧な境界と居場所(=きっかけ)だけを備えた大きな気積を用意した。総ヒノキ仕上げの半屋外的な自由な気積が功を奏し、竣工直後より予期せぬ発生したコロナ禍の自粛生活においてもグランピング感覚のストレスフリーな生活を可能とした。日立で多見する工場建築からインスピレーションをうけた切妻の建物は、現代版合掌造りのようでもあり、隣地の工場や住宅とも程よく調和する。



[入選] JINS 水戸元吉田店

●平居直設計スタジオ 住所／京都市中京区手洗水町647トキビル4F-C 電話／090-5055-6814
●協力事務所 構造／エス・キューブ・アソシエイツ ●建物所在地／茨城県水戸市元吉田町字岡崎1030番6
●建物用途／物販店舗 ●構造／鉄骨造一部木造 ●建築面積／235.59m² ●延床面積／181.87m²

周囲に埋没せず、店内で過ごしても外の環境を感じやすい空間

敷地は大規模商業エリアの一角に位置し、比較的ゆっくりとした車の動きや広大な青空駐車場からの徒歩客の絵が想像できる場所である。周囲の店舗は平屋ながらも7、8m級の高さの建物が想定されるなかで、それらに埋没せず、且つ車・人のスピードに寄り添う形態として、片流れ屋根をベースにした形態とした。

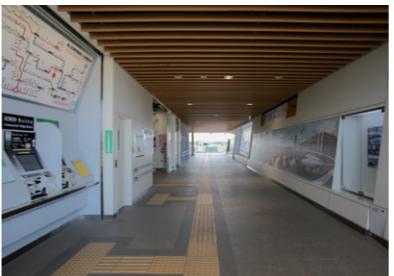
妻面をファサードとし、ヒューマンなスケールに近づく水下側を店内への入口に、水上側の建物内外を貫通する大きな壁面は光や季節の移ろいを感じられ

るような面とした。ファサードは北面になるため、日中は店前に大きな影を落すが、大きく跳ね出した屋根に開口を設けて影の中に光が差し込むようにした。軒差の植栽帯は、付近を流れる逆川の緑地を延長させるようにイメージで計画している。その他ボリュームや壁を内外貫通させることでガラスの存在感を低減させ、店内で過ごしていても外の環境を感じやすいような店内のみで完結しない空間を目指した。



[入選] 常磐線羽鳥駅橋上化及び東西自由通路新設

●東日本旅客鉄道株式会社水戸一級建築士事務所 住所／茨城県水戸市三の丸1丁目4番47号 電話／029-227-2143
●協力事務所 構造・電気・機械／株式会社 JR東日本建築設計 ●建物所在地／茨城県小美玉市羽鳥字東平2663-1、2663-58、5688-2、2688-5、2719-3、2719-4、2719-5、2719-6
●建物用途／駅舎・自由通路 ●構造／鉄骨造 ●建築面積／906.96m² ●延床面積／1,075.92m²



大きく開放的なデザインが他にない個性となっている『まちなか交流拠点』をめざした施設

小美玉市は「まちづくりの総合計画」の中で、市内唯一の鉄道駅である羽鳥駅を『まちなか交流拠点』として生活基盤の整備や良好な景観形成などによる安全・安心・快適な住環境整備を掲げていた。総合計画の理念を受け、自由通路新設、駅のパリアフリー化整備を進める事で市民生活のより一層の充実を目指し、街西側に広がる歴史文化が多く残る地域と、東側に広がる新しい住宅地との調和を図りながら、地域に開かれた人と人との交流が生まれる空間づくりを目指した。





[入選]

日立建機株式会社 土浦工場 事務管理棟

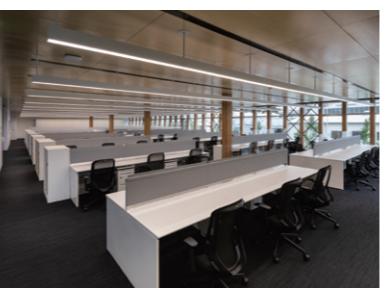
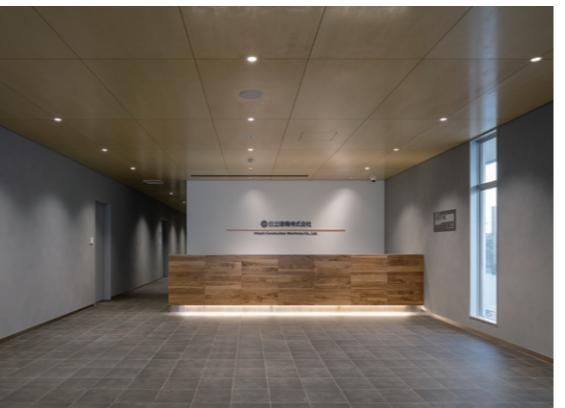
●株式会社 日立建設設計 住所／東京都千代田区内神田3-11-7 電話／070-2198-6497
 ●建物所在地／茨城県土浦市神立町650番地 ●建物用途／事務所
 ●構造／木造 ●建築面積／2,802.47m² ●延床面積／5,468.01m²

快適性、多様性、コミュニケーションをキーワードにした空間

延床面積5,000m²を超える木造2階建ての大規模木造オフィスです。中央コア部分は耐火建築物(90分耐火)南北棟は準耐火建築物(45分準耐火)であり、木造在来軸組工法を採用。柱・梁は燃えしろ設計として現し、執務エリアや吹抜部には積極的に自然採光や自然換気が可能な環境配慮型のオフィスです。

敷地は、工場の一角に位置しています。前面道路に面した企業の顔となる場所である為、新しい顔づくりにふさわしい施設計画としています。外装

材にはアルミパネル材等を採用、軒先と天井材にはシナ合板材を用いて高さを揃え、内外に繋がりのある意匠デザインとし、工場群と周囲の景観に溶け込む施設計画としました。従業員によるワークショップの意見により抽出した「快適性、多様性、コミュニケーション」のキーワードにより、施設計画を実現しています。木造らしい温かみのあるつくりとそれに合う塗装色の壁を採用することで、心地よい空間づくりを目指しました。



[入選]

平磯保育園

●有限会社 吉田建築計画事務所 住所／茨城県石岡市石岡1-1-8 電話／0299-56-3246
 ●協力事務所 構造／株式会社 シエルター建築設計事務所 電気／軍司設備設計事務所 機械／白土設備設計事務所
 ●建物所在地／茨城県ひたちなか市平磯町5042 ●建物用途／保育園 ●構造／木造 ●建築面積／787.53m²(屋外倉庫除) ●延床面積／1,170.59m²(屋外倉庫除)

この地で産出されるアンモナイトをモチーフにした園舎デザイン

計画地は東側に白亜紀層が現れる平磯海岸が眼下に見え、一面に広がる畑の中に湊線が走る姿が時折見えます。また開園に先立ち、寄り駅となる「美乃原学園駅」が開業しました。創立80年を期に建て替えとなり、新たな子育ての拠点づくりが求められました。この地で産出されるアンモナイトをモチーフに、過去(歴史)と未来をつなぐ『らせん』を園舎デザインの骨子としました。園舎は木造の準耐火建築物。造作材、建具材、幼児用の椅子・机を県産材(杉・檜)で作りました。恵まれた自然環境を積極的に取り込むために、南側

に弧を描いた幅3.7mの縁側的空間を設け、その先に園庭を見守るようにテラスを配置しました。2階には海が見えるルーフテラスを設え、プール遊びやグラビングも楽しめる大屋根の半屋外空間を創出しました。コロナ禍の今、給食



の場にも活用。三密を避けた給食は子どもたち及び先生方のストレスを軽減し、のびのびと食事を楽しめています。



[入選]
至誠館



●株式会社 三上建築事務所 住所／茨城県水戸市大町3丁目4番36号 電話／029-224-0606

●協力事務所 電気／岩坂設備設計事務所 機械／NASファシリティーデザイン室 施工／清水建設株式会社 関東支社
 ●建物所在地／茨城県土浦市真壁4丁目2354番 ●建物用途／寄宿舎(社員寮) ●構造／RC造一部S造 ●建築面積／884.47m² ●延床面積／1,484.44m²

企業の比類なき品格が醸し出されている社員寮

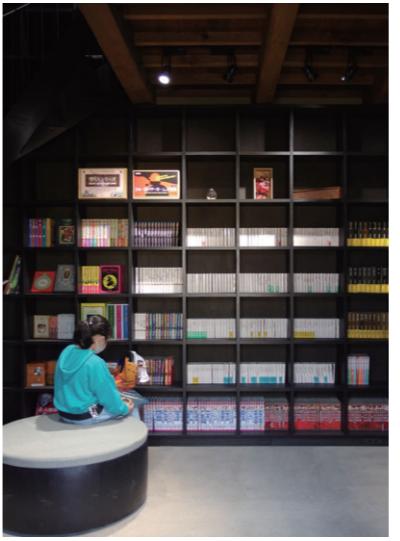


至誠館は県内有数の企業の社員寮である。外国人、シングルマザー、障がいのある方も抱擁する、茨城県のリーディングカンパニーとしての品格の体現であり、会社で働きたいと思えるインセンティブとなる。敷地は交通量が多い国

道125号に面する奥行きをもつ土地である。L型の平面形状の建物の奥行方向の一辺に男子寮を、奥の一辺に女子寮を配置した。コンクリート打放しの壁が道路と平行に立ち、越境する2階部分が通行する車からのアイキャッチとなる。その2階部分が長手方向に浮遊し、サーフィスのアルミ製水平ルーバーが奥行を強調する。入口のコンクリート打放しの門扉には黒御影石の塊が挿入されている。刻まれた「至誠館」の文字は、社長の思いに応えた会長の筆である。そこに関彰商事という企業の比類なき品格が醸し出されている。

●有限会社 吉田建築計画事務所 住所／茨城県石岡市石岡1-1-8 電話／0299-56-3246
 ●協力事務所 構造／谷亮介構造設計室 ●建物所在地／茨城県かすみがうら市高倉92 ●建物用途／図書館
 ●構造／木造 ●建築面積／21.55m² ●延床面積／28.95m²

新たな地域コミュニティの場として貢献すべく蘇った古蔵



かすみがうら市高倉地区は、古い民家が多く残り昔ながらの景観を保っている歴史ある地域である。一方でこの地域は市の最北部に位置するため図書館等の文化施設から離れており、住民が集まる交流の場や文化施設が不足していた。そこで地域の旧家に残る古蔵を、「かすみがうら市まちづくりファン助成事業」の採択を受けて、地域住民やサイクリストに開かれた小さな図書館に改修した。

外壁は伝統的瓦工技術を有する職人によって漆喰塗となまこ壁を復元した。その一方で内部は整然とした本棚と螺旋階段の挿入によって重厚な蔵の既存部との対比を強調し、蔵特有の構造を活かしつつ新しい機能である図書空間の魅力に昇華させた。1階ではミニマルな水回りと薪ストーブ・ベンチの設えによって、小さな空間の中で自由にお茶や読書を楽しめる。こうして古蔵は、地域の景観と建物の文化的価値を受け継ぎながら、新たな地域コミュニティの場として貢献すべく蘇った。

[リフォーム賞]
蔵図書館



審査委員 ※敬称略・順不同・役職は令和4年3月現在

熊澤貴之氏(国立大学法人茨城大学工学部都市システム工学科教授)
 加藤研氏(国立大学法人筑波大学芸術系助教)／梅本舞子氏(国立大学法人筑波技術大学産業技術学部産業情報学科准教授)
 山田陽一氏(茨城県土木部都市局建築指導課長)／小沼紀男氏((一財)茨城県建築センター理事長)
 柴和伸氏((一社)茨城県建築士会会長)

茨城建築文化賞の講評

茨城大学 教授 熊澤 貴之

【第一次審査の経緯】

第35回の令和3年度は2022年3月25日に審査委員6名が出席して第一次審査を実施した。今年の応募作品数は40点(内訳:大規模建築(12点)、小規模建築(12点)、住宅(14件)、リフォーム(2点))であり、小規模建築から大規模建築まで幅広い応募があった。

まず、審査委員が第一次審査会場に展示された全作品を審査した後、一人10票の持ち点で住宅、リフォーム、建築の大小、種別を問わずに投票した(第一回投票)。その結果、2票以上を獲得した作品(17作品)を評価し、さらに選別するために一人5票の持ち点で種別を問わずに投票した(第二回投票)。その結果、1票以上を獲得した作品(14作品)を入選以上に選定し、獲得数の多かった5作品を第二次審査(現地審査)の対象とした。第二次審査をする5作品には住宅作品が含まれていた。そこで、この作品を住宅部門の最優秀賞に選定すると同時に第二次審査対象の候補とした。また住宅部門の優秀賞は、第二次審査対象とした住宅作品に次いで得票数が多かった住宅作品とした。尚、第二次審査の対象である5作品にはリフォーム作品は含まれていなかつた。よってリフォーム賞においては、入選以上に選定された1作品とした。

【第二次審査の経緯】

4月23日に審査委員が5作品に対して現地で審査した後、第二次審査会場に移動した。まず審査員全員が、周辺環境条件との調和、現代的課題への提案、まちづくりへの貢献、構法・機能的な解決策、建築文化としての伝承と発信、美しいデザイン性等を主な評価軸として、5作品について講評した。その後、個々の賞に対して一人1票の持ち点で投票した。

その結果、“いばらき幼稚園”が最高得票数を集め知事賞に決まった。順次審査対象作品に対する投票を行い、“結城市庁舎”が議会議長賞に、“歴史と未来の交流館”が土木部長賞に、“茨城・常陸大宮の家”が茨城新聞社賞に、“ひたちなか市立美乃浜学園”が茨城県建築士事務所協会長賞に決まった。

【現地審査に基づく入賞作品についての講評】

■知事賞／いばらき幼稚園 株式会社 本瀬斎田建築設計事務所

敷地周辺からこの建築を眺めると、傾斜する屋根が周辺の畑に溶け込んでおり、外観のフォルムと表層が周辺環境に調和していることを実感する。建物内に入ると、玄関に直結する遊戯室には木造トラスで架構が組まれたダイナミックな大空間が広がっている。遊戯室は保育室、事務室、玄関、調理室といった諸室の中央に位置しており、各諸室を見渡せる安心できる場になっている。この遊戯室と園庭に面したデッキの間の木製テラス戸は全面的に開放できるようになっており、内部空間と軒下の半屋外空間、さらには外部空間がひとつ続きに連結している。遊戯室に面する調理室や配膳スペースはF.L.が下げられ、子どもと食事の作り手の視

線が合うように繊細な配慮が見られる。また、緩やかに傾斜する敷地に合わせ、各保育室内部の段差や廊下の傾斜が子ども達の遊び心を刺激するように配置されており、子ども達がのびのびと育っていく様子が想像できる。木を生かした空間構成は木育という視点からも優れている。本建築は木造建築が持つ空間の可能性を大きく広げていることから、審査員の高い評価を獲得した。

■議会議長賞／結城市庁舎 株式会社 久米設計

大きく弧を描く屋根に覆われた1階の空間と2~5階の無天井の執務室が建物の中央に配置された吹き抜け空間を通してつながっている。職員や来庁者はこの吹き抜けから他階の様子をうかがえ、一体感を持つことが可能である。この吹き抜けのトップライトからインテリアゾーンへの採光、吹き抜けの周囲の木製ルーバーを介した重力換気、井水を利用した躯体蓄熱壁の天井輻射冷暖房など、環境配慮型庁舎になっている。

■土木部長賞／歴史と未来の交流館 株式会社 梓設計

芝生の広場に面した大屋根と軒下に広がる60メートルを超える長い縁側空間が最大の特徴である。この縁側空間と内部空間の境界は約60メートル続く透明なガラスで仕切られている。施設内部から芝生の広場を眺めると、縁側と芝生が連続し、緑のシーケンスを体験できる。また、軒先には樋がないため、内外部から見たときにつきりと見え、大屋根を一層、強調できている。さらに雨の日には、軒先から雨粒が落水する様子を見る事ができ、縁側や施設内からは落水表情を感じることができる。天候に応じて異なる様相を見せてくれる大屋根ファサードの表情は建築の新しい可能性を提示している。

■茨城新聞社賞／茨城・常陸大宮の家 株式会社 中山大輔建築設計事務所

敷地は市街地から離れた農家住宅の中にあり、中庭を囲うように、この住宅と母屋が建っている。農村風景の中の光と風がリビング・ダイニングの南面の開口部からやさしく住宅内部に入り込み、吹き抜け空間を通して、すべての部屋に届くようになっている。冬季においては南面に据えられた薪ストーブからの熱が各部屋を循環する。自然環境に親しむ田舎暮らしのスタイルが審査員より評価された。

■茨城県建築士事務所協会長賞／ひたちなか市立美乃浜学園 株式会社 相和技術研究所

三つの小学校と二つの中学校を統合した小中一貫校である。配置計画は敷地の南側に共用グラウンドを取り、その北側に校舎棟、西側に室内運動場棟とプール棟を配置する機能的な構成になっている。各教室は南面にバルコニーがあり、明るく風通しの良い学校となっている。

以上、本茨城建築文化賞は例年作品の規模、種類、依頼主、工事単価等を全く考慮せずに選定している。そこに選考の難しさはあるが、今後も本賞の趣旨に謳われた目的に叶う「一つの建築として完成度の高い作品」を見出すべく審査に臨む思いでいる。時代の求める課題に応え、チャレンジングな提案性ある新たな作品を次年度も期待したい。

※建築文化賞の表記は、申し込み時点のものとなります。